

# 動物きひ剤

# アンレス

野ウサギ・野ネズミの  
被害から  
苗木を守る!



## ● 被害の見分け方 ●



野ウサギ



### 枝葉摂食

被害部位は根元から70cm以下の高さで、植栽直後の被害発生が多い。鋭利な刃物で切ったような切断面となるが、下刈りの鎌による誤伐との区別が必要。(植栽直後に主軸を切断されたスギ。①)



### 樹皮摂食

樹皮が細長く剥がされ、ノミでえぐったような歯痕がところどころに残る。(樹皮を摂食されたヒノキ。②)



野ネズミ



### 樹皮摂食

根元から30cm以下の樹皮と地下の根が摂食される。樹皮の被害は根元から10cm以下に集中し、環状にかじりとられ細かい歯痕が残る。(樹皮を摂食されたヒノキ。③)



スズメの稲もみ被害にも使用できます

アンレス水和剤



全体



拡大

無処理



全体



拡大

参考資料：(財)林業科学技術振興所「哺乳類による森林被害ウォッチング」

撮影：①栃木県矢板森林管理事務所 津布久 隆

②鳥取県農林総合研究所林業試験場 竹下 努

③福岡県筑後農林事務所 池田 浩一

# 動物きび剤 アンレス

有効成分：チウラム.....80.0%

殺菌剤分類 M3

人畜毒性：普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）

包装：500g×20袋

## ↑ 特長

1. 農作物を加害するスズメ、野ネズミ、野ウサギに対し強い忌避効果を発揮します。
2. 樹木に忌避剤として使用する場合、秋から初冬の間、1回処理で翌春の融雪時期まで残効があります。
3. 種もみ処理で苗立枯病の予防に効果があります。

## ↑ 適用病害鳥獣名および使用方法

作物名	適用病害鳥獣名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤およびチウラムを含む農薬の総使用回数	使用方法
稲	スズメ 野ソ(野ネズミ) 苗立枯病	10倍	—	は種前	1回	種もみを浸漬(1~2分)し、風乾後は種する
りんご	野ウサギ 野ソ(野ネズミ)		30~60 ℓ/10a	—	5回以内	樹幹部に散布または塗布する
あかまつ、からまつ、桑、すぎ、ひのき				—		

## ⚠ 効果・薬害などの注意(抜粋)

- 希釈液の作り方は、まず本剤に少量の水を加え、よく練ってから所定量の水を加え、さらによくかき混ぜて作ります(噴口のつまりを防ぐため)。
- 種もみに使用する場合は次の注意事項を守ってください。
  - ①希釈倍数・浸漬時間を厳守してください。浸漬後2~8時間風乾した後に、は種してください。種もみの催芽程度は48時間以内の浸漬催芽としてください。
  - ②箱まき・バットまきなどでは使用しないでください。
  - ③本剤の粉衣処理は、処理量によっては薬害のおそれがあるのでさけてください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。
- 使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病虫害防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

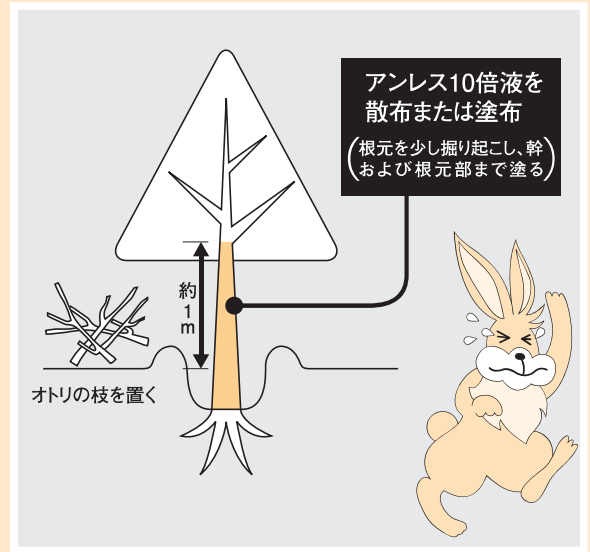
## 上手な使い方

### 【樹木類に使用する場合】

- ①散布むらのないように十分に散布してください。
- ②塗布する場合は、害を受けやすい樹幹部全体に刷毛などを用いて処理してください。
- ③本剤は秋から初冬にかけて使用しますが、処理した薬液が凍結すると固着性が悪くなるので、凍結のおそれがない時に使用してください。また降雪地帯では根雪になる前に処理してください。
- ④処理後24時間は降雨がないことを見越して使用してください。

### 【稲の種もみに使用する場合】

- ①発芽もみには使用せず、乾燥もみに使用してください。
- ②他の病害の種子消毒を行なう場合は本剤の処理前に行なってください。ただし、チウラムを含む製剤との重複処理はさけてください。



## ⚠ 安全使用上の注意

- 眼に対して強い刺激性があるので、眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに十分に水洗し、眼科医の指示を受けてください。
- 皮膚に対して刺激性があるので、皮膚に付着しないよう注意してください。付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とすしてください。
- 薬液調製時及び使用の際は保護メガネ、防護マスク、不浸透性手袋、不浸透性防除衣などを着用してください。作業後は直ちに手足、顔などを石けんでよく洗い、洗眼・うがいをするのと同時に衣服を交換してください。
- 作業時に着用していた衣服などは、他のものとは分けて洗濯してください。
- かぶれやすい体質の人は、取り扱いに十分注意してください。
- 本剤で処理した種子は、食糧や動物飼料として使用しないようにしてください。
- 街路、公園等で使用する場合は、使用中及び使用後(少なくとも使用当日)に小児や使用に関係のない者が使用区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に影響を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 水産動植物(甲殻類、藻類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器、空袋等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。

### 水産動植物への影響

- 水産動植物(魚類)に強い影響を及ぼすおそれがあるので、河川、湖沼及び海域等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。養殖池周辺での使用はさけてください。

保管：密封し、直射日光を避け、食品と区別して、小児の手の届かない冷涼・乾燥した所に保管してください。



# 日本曹達株式会社

〒100-7010 東京都千代田区丸の内二丁目7番2号

お問合せ (03)4212-9655

(平日9~12時、13~17時、土日祝日を除く)



最新の登録内容  
SDSはこちら